



つなぐちゃんベクトル

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会社内誌 臨時増刊 323 号 2011.4.5 発行 社会政策研究所

=====

障害者雇用カフェ「よってこ十間堀」 佐賀市中心商店街に開設



西日本新聞 2011年4月5日
障害者スタッフ8人が働き、イベント会場にも活用される「よってこ十間堀」

知的障害者の自立をサポートしている佐賀市のNPO法人「たすけあい佐賀」(西田京子代表)は4日、カフェや託児所機能を備えた施設「地域共生ステーション よってこ十間(じゅっけん)堀」を同市唐人1丁目に開設した。スタッフの半数に当たる8人が知的障害者。障害の有無を超えた交流の場

づくりを目指す。

たすけあい佐賀は、知的障害者を雇用する宅老所や託児所を市内8カ所で運営している。人通りが減った中心市街地で「多くの人たちがふれ合う場所をつくろう」(西田代表)と、県と市の補助金500万円を得て、空き店舗を改装した。

事業の柱は、野菜中心の健康的なランチやコーヒーなどを提供する「まちなかカフェ」。初日に店に立ったスタッフ、徳永祐太郎さん(18)は「いろんな人と接するので、緊張するけれど勉強になる」と話していた。

カフェのほかに、事業所や住宅を2時間3千円で清掃する「よってこクリーンサービス」、一時託児(2時間500円)を展開。週末には地元音楽家のコンサートや、歌声喫茶などのイベントを不定期で開く。西田代表は「誰もが気軽に立ち寄れる場所にしたい」と意気込んでいる。

営業時間は午前10時 - 午後5時。日曜定休。よってこ十間堀 = 0952(97)9075。

交通弱者の事故ゼロ目指す、知的障害者を対象に交通安全教室/小田原



神奈川新聞 2011年4月4日

車に注意しながら手を挙げて横断歩道を渡る参加者 = 小田原ドライビングスクール

知的障害者を対象とした交通安全教室が4日、小田原ドライビングスクール(小田原市蓮正寺)で開かれた。交通弱者とされる障害者の事故をなくそうという取り組みで、3回目になる。

参加したのは、知的障害者施設「梅香園」の利用者22人。施設長の山下良男さん(58)によると、自力で施設に通っている人の過半数は、最寄りの小田急線蛸田駅から約700メートルの距離を歩いているという。

しかし同駅前車道は通行量が多いうえ、必ず信号機のない横断歩道を渡らなければならない。歩道の幅も十分とは言えず、山下さんは「週に一度はドキッとするような話を聞かされる」と話す。

こうした声を受け、同スクールが昨年初めて教室を企画した。この日はスクールの教官や小田原署員らが講師になり、見通しの悪い交差点や歩道で自転車とすれ違う場面での注意点を指導した。

計画停電も考慮して、信号機のない横断歩道を渡る練習は念入りに行った。参加者は手を挙げて左右を確認していたが、よく周囲を見ずに歩き出そうとする姿もあった。

徒歩で通所している平井ますみさん(26)は「蛭田駅から歩くときは車に十分気をつけたい」。山下さんは「蛭田駅前の横断歩道で10分近く待つ利用者もいる。ドライバーの配慮もほしい」と話した。

世界初の障害者行政大学院 人材育成へネット上に設立



共同通信 2011年4月4日

4日、バンコクのマヒドン大で、障害者行政専門大学院の設立文書調印式に出席した日本財団の大野修一常務理事(前列左)ら(共同)

【バンコク共同】東南アジア諸国連合(ASEAN)域内の障害者行政を担う人材を育成するため、障害者に対する行政サービス専門の大学院がインターネット上に設立されることになり、バンコクのマヒドン大で4日、設立文書調印式が行われた。インターネット上で授業を

行い、修了者に学位を授与する。

障害者行政専門の大学院は世界でも初めて。ASEANのスリン事務局長は「ASEANを世界で最も障害者に優しい地域にしたい」と話した。

授業は7月に始まり、学生の定員は25人。応募要項など詳細は <http://aseanidpp.org>

避難所に900人超の障害者

NHK ニュース 2011年4月5日

東日本大震災で岩手県内では、市街地が壊滅的な被害を受けた陸前高田市など3つの市と町の避難所だけで、900人を超える障害者が不自由な生活を余儀なくされていることが分かり、県では、できるだけ早く必要な福祉サービスを提供できるよう対応していききたいとしています。

岩手県は、県内の障害者の被災状況を確認しようと、先月下旬から障害者手帳の交付データと避難所の名簿を照らし合わせて作業を進めてきました。その結果、今回の震災で大きな被害を受けた陸前高田市と大槌町それに山田町の3つの市と町の避難所だけで、合わせて909人の障害者が不自由な生活を余儀なくされていることが分かりました。このうち陸前高田市は397人、大槌町は380人、山田町は132人となっています。岩手県は、今月中旬までに、被災した12の市町村すべてで確認作業を行うということで、県障がい保健福祉課の山崎淳課長は「必要な福祉サービスを早急に提供していきたい」と話しています。

県が障害者相談支援センター 3市町に5日開設

岩手日報 2011年4月4日

県は5日から、震災の被害が大きかった陸前高田市など3市町に「障がい者相談支援セ

ンター」を開設する。専門職員を派遣し、障害者手帳の再発行などに応じるほか、避難所を巡回して障害者の現状と支援ニーズの把握を行う。開設は29日まで。

相談支援センターの窓口は 陸前高田市・市立学校給食センター 大槌町・中央公民館 山田町役場—に設ける。3市町の業務を支えるため県や内陸部の市町村職員、障がい者相談支援専門員が、1日4～6人態勢で相談に当たる。

窓口と巡回相談では、被災して壊れたつえや車椅子の修理の取り次ぎ、障害福祉サービスを受けるための手続きなどを行う。手話ができる相談員が聴覚障害者に対応する。

避難所を中心に巡回するが、自宅や親戚宅に避難している場合は職員が出向いて対応することも想定する。

3市町以外の被災地は各市町村で対応する。

県障がい保健福祉課の山崎淳障がい福祉担当課長は「ニーズをしっかりと把握し、相談には現地で素早い対応をしたい」と話した。

県は沿岸12市町村の避難所で生活する障害者の人数の調査を進めており、4月中旬をめどにまとめる方針だ。

軽作業で被災者100人雇用へ 三木の運送会社

神戸新聞 2011年4月4日



被災者100人の雇用を申し出た生田陸運の山口善正社長＝三木市別所町興治 三木市の運送会社「生田陸運」が、全国のハローワークを通して東日本大震災の被災者100人の雇用に乗り出した。関西に一時避難してきた被災者の生活基盤を整えたいとしており、高齢者や障害者ら幅広い人が働けるように軽作業の仕事を用意している。

主な仕事内容は、青果などが入っていたプラスチックケースから野菜の葉などを取り除き、洗浄する作業。被災者が地域ぐるみで移ってくる場合を考え、仲間と一緒に安心して働いてもらおうと募集人数を100人とした。

短時間のパートとフルタイム（午前9時～午後5時）があり、雇用期間は相談に応じる。神戸などへの送迎バスも検討する。

社長の山口善正さん（55）＝神戸市西区＝は阪神・淡路大震災で同市兵庫区で被災した。三木市の会社に避難したが、各地の取引先からトラックで水や食料などが続々と届いた。「あのときの思いは忘れていない。多くの社員が神戸で被災しており、本当に助けられた」と振り返る。

兵庫県が1万人規模で被災者を受け入れる準備を進めていることを知り、ハローワークなどに相談して決めた。山口さんは「16年前の恩返しをしたい。移り住んだ被災者の不安が少しでも解消できれば」と話している。（斉藤正志）

たまには太陽の子・手をつなぐ、たまにはつなぐちゃんベクトル、たまにブログたまにはチェック



大阪市天王寺区生玉前町 5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行